



研究テーマ

1 ロボット支援下手術の手術手技の開発

2 がん・生殖医療におけるネットワーク構築

3 動物実験：子宮内胎児発育遅延モデル



桂木 真司

かつらぎ しんじ

医学部

医学科

発達泌尿生殖医学講座産

婦人科学分野

教授

キーワード

周産期、循環器、生殖医療、不妊症、婦人科手術、腹腔鏡手術、ロボット支援下腹腔鏡手術、がん・生殖医療、新生児、早産、DOHaD、低出生体重児、生活習慣病、低酸素虚血性脳症

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

産婦人科は周産期、婦人科、高度生殖医療、女性医学と幅広い診療域を持つために研究内容も多岐に渡る。500g程度の超低出生体重児の新生児集中医療管理では呼吸、循環、神経、消化器学等の生理学に基づいた臨床研究の上に日常診療が成り立っている。

現在、当教室では、ロボット支援下手術手技の開発、遺伝性乳がん、卵巣がんの早期診断・治療など最新の医療技術を導入しています。そして更なる向上した最先端の医療を提供するために宮崎大学テニユアトラック部門、フロンティア部門、他学部との情報交換を行っている。

1 ロボット支援下手術の手術手技の開発

DOHaD研究 (Developmental health and diseases)

DOHaDとは胎内、出生時環境、幼児期の発育が成人期における疾患の発症に関連する事で、多くの疫学研究から明らかとなってきた。

(1) 母体の栄養と児の発育

動物実験モデル:母ラットに30%の食事制限をする事で子宮内胎児発育遅延モデルを作成し、出生後の新生児はコントロール群と比べて体重が約15%減少しており、思春期の認知、記憶力が低下し情動が不安定な特徴を示した。脳の組織学的、生化学的評価を今後施行する。

(2) 疫学研究

母子手帳の出生時体重と40～60歳での健康診断での結果を比較します。出生体重が小さい群

2 がん・生殖医療におけるネットワーク構築

宮崎県周産期医療研究

1998年より宮崎県内の周産期死亡(胎児死亡、新生児死亡)症例、神経学的予後不良症例、妊産婦死亡症例の原因分析を行っています。原因分析調査、改善を行い多くの論文報告、学会発表を通して全国の周産期医療をリードしています。

低侵襲手術療法の取り組み

2015年より腹腔鏡手術、2020年よりロボット支援下の腹腔鏡手術を取り組み低侵襲手術手技に取り組み全国にデータを発信しています。

3 動物実験：子宮内胎児発育遅延モデル

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

産婦人科学 周産期学 胎児心エコー診断 合併症妊娠 ラット低酸素モデル ラット子宮内胎児発育不全モデル

ロボット支援下腹腔鏡手術 女性医学

メッセージ

産婦人科では胎児期の環境が成人病の発症に寄与するDoHAD仮説の疫学検証、動物実験モデルを用いた研究を行っています。2021年からがん・生殖医療分野では妊孕性温存療法の患者支援を行っています。産婦人科領域の診療、研究を進展させ、産官学連携を積極的に推